

## サービック労組の情報（JS労にご注意を!!）について

### JS労のいったい何に「注意」するのか!?

サービック労組は、「JS労（JRサービック労働組合）にご注意を!!」と題した情報（通算477号）を発行しています。「注意」は「用心すること」「警戒」を意味します。サービック労組は穏やかでない「注意」の言葉を使って、JS労の何に対して注意喚起をしているのでしょうか？

情報では、JS労の結成を胡散臭いものと受け止められるような言葉使いをしているところがあります。例えば「JS労の役員はJR東海からサービックに出向にきているだけでサービックの社員ではない。JR東海労という役員・組合員です。「なぜ親会社のJR東海の組合がサービックに来て、わざわざサービック内で組合を立ち上げプロパー社員を勧誘しているのか疑問である」」などです。

### 「注意」するのは組合員ではなくサービック労組だった!

情報から、「注意」するのは組合員ではなくサービック労組であることがわかります。「はたしてJS労はそういった取り組みが出来るのか？JS労の運動でサービックの組合員が良くなるのか？なぜJRの組合なのにJRにもものを申さずに、サービックに組合を立ち上げ、サービック会社に申入れを行うのか？」「JR東海労の大会で、JS労の結成を「私たちの闘いの前進」と謳っており、自分たちのために作ったと感ぜられる。サービックで働く人たちのために作られた組織か？」「サービック労組では二重加盟は認めておらず、会社と結んだ労働協約にサービック労組が従業員を代表する唯一の労働組合であると明記している」

上記から、サービック労組にとってJS労の結成は無視できないことがわかります。昨年8月にJS労を結成してからこの半年の間に「労働協約締結に向けて」「年末手当」「労働条件及び職場諸要求」「賃金引き上げ及び夏季手当」などを取り組んでいます。単に結成だけでなくこれまでのJS労の取り組みが、サービック労組にとっては、無視どころか「注意」しなければならない存在になっていると思います。

なぜなら、サービック労組はサービック労組組合員のために尽力していないことを自覚しています。ユニオンショップ制にあぐらを掻き、少ない賃金からすれば高い組合費を徴収して、「親会社がJR東海だから解決は難しい」と言い訳するだけです。

情報の最後の記載は、「ユニオンショップ制」を盾に取ったJS労への加入に対する脅しです。「二重加盟」は法律的にも何も問題はありませぬ。このような諸悪の根源である「ユニオンショップ制」をなくし「オープンショップ制」に変えるために、私たちはサービックと労働協約を締結するため取り組んでいます。

メールアドレス・jsrou@yahoo.ne.jp